

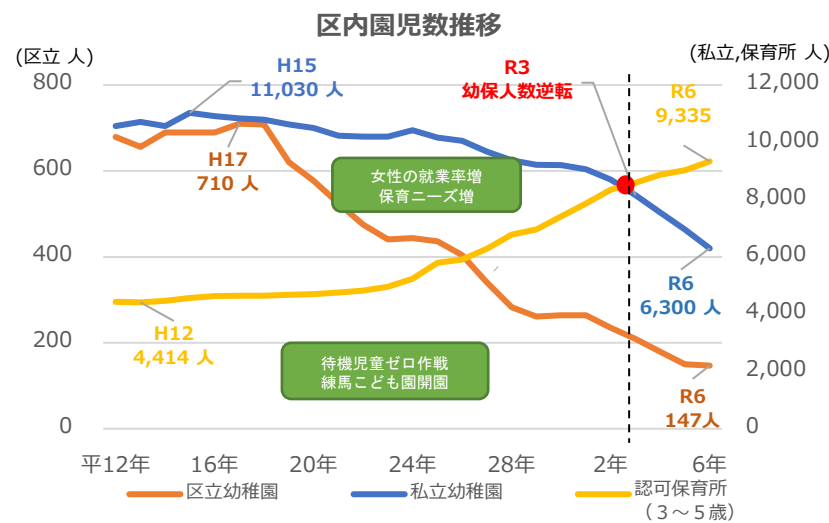
区立幼稚園の現状と今後の方向性について

1 区立幼稚園の経緯

昭和50年	・区内初の区立園が 開園 （北大泉） ※ 幼稚園の空白地域解消、2年保育開始
昭和60年～平成元年	・光が丘地区に 4園 （あかね、むらさき、わかば、さくら）が順次 開園 ※ 光が丘団地の開発に伴う需要増に対応、私立園の設置が見込めない
平成26年	・光が丘地区の 2園 を 閉園 （あかね・わかば） ※ 保育ニーズの高まり園児減少のため適正配置を実施。跡地を保育所として活用 ・北大泉幼稚園、光が丘むらさき幼稚園、光が丘さくら幼稚園の 3園 を運営

2 幼稚園児数の推移

● 練馬区内の園児数推移



● 幼稚園の園児数は区立・私立ともに近年大きく減少。

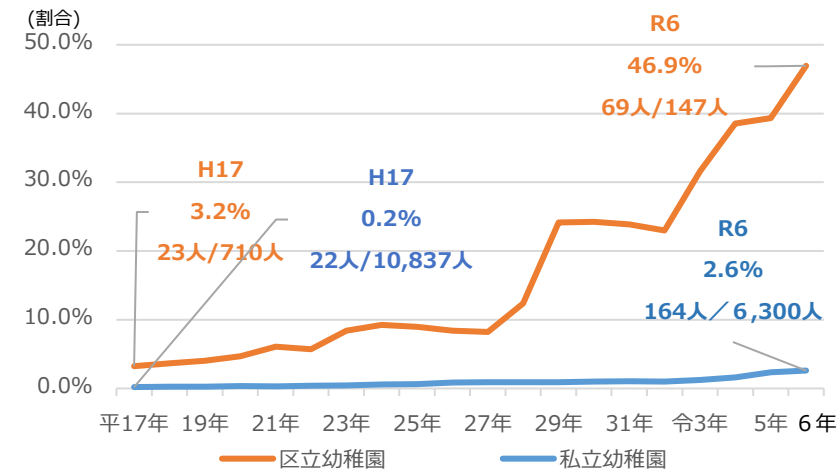
（要因）女性の就業率増に伴う保育園需要増、急速な少子化に伴う子どもの数の減

● 令和6年度における3～5歳の幼児のうち、幼稚園に通園している割合は約4割、認可保育所に通園している割合は約6割。

＜区立幼稚園児数の最新推移＞

年度	区立幼稚園園児数	前年比
令和5年度	150人	△29人
令和6年度	147人	△3人
令和7年度	123人	△24人

3 障害児の受入れ状況



- 私立、区立ともに障害児数は増加。
- 区立の障害児の割合は高い(約4割)

＜区立幼稚園の障害児数の最新推移＞

年度	園児数	うち障害児数	割合
令和5年度	150人	59人	39.3%
令和6年度	147人	69人	46.9%
令和7年度	123人	49人	39.8%

4 保護者アンケート結果（抜粋）

● 現在在籍している区立幼稚園の満足度が高い項目（上位3つまで選択）

○満足度が高い項目については、「**教職員の体制や質について**」が最も多く**62%**、順に「教育内容や教育方針について（59%）」「特別な配慮が必要な幼児への対応（39%）」。

● 区立幼稚園に期待する機能（上位3つまで選択）

○区立幼稚園に期待する機能については、「**3年保育の実施**」が最も多く**66%**、順に「預かり保育の充実（51%）」「給食の実施（43%）」という結果になった。

● 自由記載

- ・発達障害児に対する知識・ノウハウが豊富ですばらしい。
- ・発達・特性があると安心して預けられる場所はとても貴重であり、**欠かせない場所**である。
- ・発達に遅れがあるからこそ早くから幼稚園に通える方が良いと思う。**是非三年保育を検討**して頂きたい。
- ・介助のいないお子さんがクラス2、3人で、その中の誰か休むとさらに遊べる友達が少なくなる。

5 現状を踏まえた区立幼稚園の方向性について

運営方法

- 区立幼稚園の特色としては、**教育の質の高さや障害児の受入れ数の多さ**などが挙げられ、これらの特色・保護者のニーズを踏まえた運営方法の検討が必要。

- 前回会議において**子育て世帯等への支援や幼小連携の体制**についても議論があり、そうした公立園の役割を踏まえた運営の視点が必要との意見があった。

- 園児数が減少している一方で、**区立園としてのニーズも一定数ある状況**。
これらを踏まえた**必要な施策の展開**を検討。

適正規模

- 区立幼稚園適正配置実施計画（H24.3）において、光が丘地区**4園**の区立幼稚園の充員率（**40.3%**）や園児数増加の大幅な増加が見込まれないことから**2園**を閉園。

- 区立幼稚園の適正配置基本方針（R6.3）において、今後の園児数の推移を踏まえた**適正規模**について議論することとした。
園児の教育環境を鑑み、園児数の減少による教育環境の集約の必要性について検討する必要がある。

- 運営する園の**適正規模**について、園児数に対する必要な園数（**3園を2園に集約する必要性**）について検討。